

第4回 **かしま病院**

認定看護師による勉強会

内容 **摂食嚥下障害の
ケアを知ろう**

講話内容予定

- 「摂食嚥下障害の原因と症状」
- 「食事場面の観察と介助方法」
- 「とろみ剤の使い方(演習)」

講師 **摂食・嚥下障害看護認定看護師
青木美枝子**



日時 **平成30年 5月 16日(水)
18時00分～19時00分**

会場 **かしま病院
コミュニティーホール**

対象者 **主に医療、看護、介護に
携わっている方。**

参加には事前の申込が必要です。

たくさんの皆様のご参加をお待ちしています。

かしま病院の認定看護師が講師を務める、病院、診療所、施設などの現場で役立つ実践的な内容が盛り沢山の勉強会です。興味をお持ちの方は、**かしま病院地域医療連携室 (TEL0246-76-0350)** までお問い合わせください。

糖尿病のおはなし
かしま糖尿病サポートチーム

糖尿病療養をサポート!

～糖尿病療養指導士～

今回の糖尿病教室では、糖尿病自慢と題しまして、患者さん自身の療養生活での頑張りを思うがままお話していただきました。

患者さん参加型の教室とさせていただいたことから、患者さん方の活発な意見交換、体験談を教えていただき私達も大変勉強になりました。教室の中でも聞かれた事ですが、自己管理のための具体的な知識を得て必要な技術を習得しても、実際の生活に活かすことが出来ず、血糖コントロールが不良となったり、合併症の出現に悩んだりと様々な問題を抱えている患者さんが多くいらっしゃいます。

私達療養指導士はそのような患者さんに寄り添い、自己管理が継続して上手く行えるよう力になればと考えております。今後も糖尿病療養に関する知識や情報をお伝えしていきたいと思っておりますので、糖尿病教室へ多くのご参加をお待ちしております。

DMサポートチーム
看護師 早瀬 美和子



注意力の散漫な高齢者が、注意力を集中させすぎて、失敗しました

1月25日に福島に出張したとき高速バスの中でスマートフォンを落としてしまい、大慌てしましたが、福島駅東口の福島交通の窓口に着いていて事無きを得ました。日本人の公徳心に感謝をするともに、自らの注意力の散漫さを反省し、今後は注意を倍化させようと決意しました。

ところが、また失敗をしました。3月15日に再び県医師会の仕事で福島に出張しました。曜日も時間も同じ高速バスに乗り福島駅東口で下車しました。前回の失敗がありますのでスマホはしっかりと確認して降りました。会議前の時間を過ごすため地下の連絡路を通って西口に向かいました。歩きながら、今回は注意したから安心だと思いつつ、スマホは大丈夫、財布は大丈夫、小銭入れは大丈夫・・・とのんきに確認をしていると、「あれ!」。右の尻ポケットが空っぽであることに気づきました。またやっつけてしまいました。

小銭入れが見当たりません。小銭入れとはいえ、幾種類かのカードも入れていました。バスはすでに出発しています。それでも帰るまで見つからなければ幸運だと思い、回れ右をして福島交通の窓口に向かいました。2ヶ月足らず前にスマホでお世話になったばかりなので、気恥ずかしい思いはありましたが、意を決して窓口相談をしました。時刻と座席の位置などを説明しているうちに、窓口係の方がぬすっと見覚えのある小銭入れを差し出して下さいました。これには驚きました。どうしてこんなに早く届いているのだらう?不思議でした。係りの方は平静の面持ちで手渡して下さいました。

ひんがら目(131)

前回は重要な落し物であったので、駅の売店でお菓子を買って感謝の気持ちを表しましたが、2度目はひっそりと受け取りました。

こんなに早く届いたところを見ますと、運転手の方が、多数の乗客が降車した停留所では、立ち去った座席に忘れ物がないか確認の作業を行ってくださっているのだと確信しました。安全運転だけでなく乗客への細やかな心遣いに感激しました。

嘗て、高齢者の運転免許更新の講習を受けた際、講師の方に、「高齢者は、歩行者や自転車に気をつけて運転してください」と教えられたことがあります。それまで、ゴールド免許でしたが、これからは歩行者や自転車にもっと気をつけてようと自戒しましたところ、講習会後1ヶ月して交通事故を起こしてしまいました。右方から自転車を引いて歩いて来た老人に注意して交差点を右折したところ、左方から高速で走ってきた乗用車に気づかず衝突しました。左方は緩やかなカーブであったため発見が遅れました。相手が優先道路であったため責任はこちらにありました。

高齢になり、集中力が衰えますと、ある1点だけに集中しますと他のことには気づけなくなりかえって危険なことがあります。バランスよく注意力を発揮することが重要です。それが出来なくなるときには運転などの危険行為からは退かないといけません。医療行為も、若いときと違い目配りが疎かになりやすいので、医師不足の中とはいえ危険なことは自覚しないといけません。また、周囲の方々からの忠告には謙虚に耳を傾けなくてはなりません。忠告に感謝をし、安全な老医でありたいものです。

(呼吸器科 部長 山根 喜男)